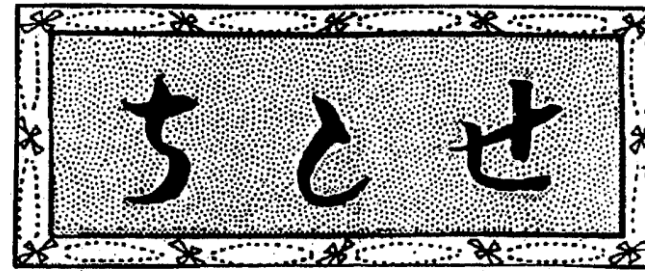


発行・編集 ミニコミ編集委員会
責任者 古我照彦
事務局 船橋まちづくりセンター
電話 3482-0341
2015. 3 No.101号



まちの目が
安全・安心を守っています
船橋地区町会・自治会連合会
船橋地区身近なまちづくり協議会
青少年船橋地区委員会/成城警察署/成城防犯協会



「多世代が交流する 笑顔あふれるまちへ」

こゆうかい 鼓友会の皆さん(千歳台小学校、船橋小学校ほか) 親子二代祭り太鼓 新技に挑戦!

●千歳台で、親子2代太鼓を続けている島津さんと娘の成田さん。お祭りや行事に参加しています。練習も迫力満点!

Q太鼓を始めたきっかけは?

成田さん…父たちが叩いているのが楽しそうだった。ゆなちゃん(船橋小3年)…お兄ちゃんがやっていた。いっぺい君(船橋小6年)…お祭りで太鼓を叩いている姿がかっこよかった。ののかちゃん(千歳台小6年)…習字の先生に勧められたから。あいなちゃん(登戸小6年)…お母さんとお姉ちゃんがやっていた。かよこさん…母に勧められたから。



Q楽しいのはどんなときですか?

いっぺい君…お祭りで知らない人と話せるのが楽しい。ゆなちゃん…お祭りに出るのが楽しい。

Qこれからがんばりたいことは?

ののかちゃん…基本の技を完璧にしたいです。あやのちゃん…新しい技に挑戦したいです。

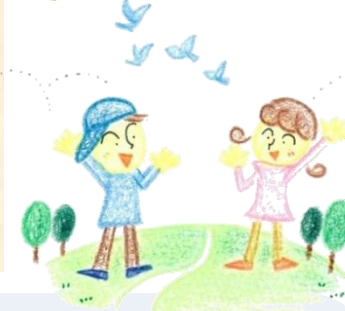
Qどんなまちであってほしいですか?

成田さん…太鼓を叩くのが楽しくて、その楽しさが今に続き、子どもたちも楽しいと感じてくれています。楽しいことがたくさんあふれている地域であってほしいです。



がんばっています! 船橋・千歳台育ちの子ども・若者たち 「応援してくれる人がいるこのまちが好き」

ミニコミ「ちとせ」101号は、未来がテーマです。人口が増え、特に子どもが増えている船橋・千歳台の地。若い人の声を聞きたくて、まちに出かけました。励ます人・応える人・支える人・がんばる人…未来は明るいですね。



ボランティアクラブの皆さん(子どもぶんか村) 全部自分たちの手で できるようになりたい!

●中学生 30人、小学生 4人。部活や塾との折り合いをつけながら、できる時に参加する形で活動を続けている。くらぶ長は設けず、ひとりひとりがリーダー。船橋ふれあいまつりなどで「子どもきっさ」を開いたり、まちの人たちのお手伝いで活躍。

Qくらぶで楽しいこと・うれしいことは?

◇「いつも手伝ってくれてありがとう」と言われるとうれしい。◇きっさで「おいしかったよ」と言われるとうれしい。◇知っている人が増えて、活動以外のところでも会うとあいさつします。◇地域への関心も深まりました。



▲話し合いの様子

Qこれからやってみたいことは?

◇将来は災害ボランティアとかもやってみたい。他の地域でもこのような活動を広げられたらいいと思う。◇今は身近なところだけなので、八幡山など活動地域を広げたい。◇きっさについて、企画からやっていますが、他に買い物などもっとできることを増やしたい。◇ボランティアと言いつつ、人に頼っている部分もあるので、最後まで全部自分たちでできるようにしたい。

Q子どもきっさなどで得た売り上げ金の生かし方は?

◇メンバーで寄付先を決めて、一年ごとに寄付しています。昨年は、寄付先に物品を届けに行きました。街や学校での募金箱への募金と違って、届け先の人たちに実際に会っておりがとうと言ってもらえたこと、がんばってと直に言えたことがとても良かったです。



吉田加奈さん(希望丘小学校学校運営委員) まちづくりに、背のびしないで協力したい

●毎月、学校運営について話し合っています。

Q 希望ヶ丘団地はふるさとだそうですね。

ここで生まれ、希望丘小学校、旧希望丘中学校を卒業しました。子どもの時は地域の子どもの対象としたキャンプや町歩きに参加しました。今は、夫と協力して、小学生と保育園児を育てています。昨年からは、希望丘小学校の学校運営委員をお引き受けして、少しずつ学校のことが分かるようになりました。子どもが小さいので、災害時や通学路の安全、食物アレルギーのことに特に関心があります。団地は、長年の顔見知りの方も多く、安心して行き来できるのがありがたいですね。親が同じ階に住んでいるので、親を見守っていただけるのもうれしいです。あっ、私たちが見守ってもらっているのかな(笑)。保育園のお迎えなど、いろいろ助けてもらっています。

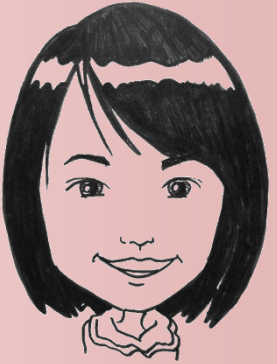


Q どんなまちにしていきたいですか?

職場も近くなるので、できればずっと住み続けていきたいです。背伸びをせずに、居住環境をよくしていくことに協力していきたいですね。先輩方の意見に耳を傾け、若い世代の考えもお伝えして、もっと安全・安心で環境のいいまちにしていけたらと思っています。

Tさん(船橋小学校4年生) 真冬も元気にラジオ体操

●千歳船橋駅前広場のラジオ体操に幼稚園生の妹さんと参加して1年になります。



Q毎朝のラジオ体操でうれしいことは?

毎朝、お年寄りを中心に20人くらい集まります。夏は子どもが多いのですが秋になると減って、今は3~4人くらい。冬は寒いけど、体操をするとあったかくなります。終わる頃に朝日がでて、とてもきれいです。ラジオ体操に参加すると、いつもおじいさん(91歳)が、出席表にハンコを押してアメをくださいます。毎月プレゼントもあって、「よくきたね」「えらいね」と、ほめてくださいます。船橋小学校の臼井校長先生も立ち寄って、握手をしてくれます。

Q始めたきっかけは?

ラジオ体操に参加していた子が、昨年3月に引越しました。その時に「子どもが少ないとお年寄りがさみしい思いをされるから、続けてね」と言っていたと聞きました。それで、続けていこうと思いました。

Qこのまちが好きですか?

ご近所に親切な人がたくさんいて、いつも声をかけてくれるので大好きです。ずっと、今のままでいてほしいです。



ラジオ体操出席表とプレゼントのお人形 ▶



第2PK
右がひろみさん

ひろみ(第2PK・お笑い芸人) 地元の応援は特別なんです!

●船橋小、船橋中、都立蘆花高校を経てお笑いの道へ。船橋在住。映画「百瀬、こっちを向いて。」(向井理他)に出演。本名「佐野ひろみ」。

Q お笑いの世界に入ったきっかけは?

アルバイト先の仲間がぼくの話喜んで聞いてくれたこと。それからテレビに出てみたいと思うようになって、養成所に入りました。今は、「また見たい」と思ってもらえる芸人を目指しています。昨年はドラマや映画にも出させてもらえたので、お笑い俳優を両立させたいです。「よくばり!」がモットーです(笑)

Q 千歳船橋駅前広場の盆踊りの司会や神明神社秋祭りの演芸大会など、地元を大切にしていますね。

地元で応援してくれる人がいると思うと力が出てくるんです。お笑いライブでも「私も船橋小出身よ」なんて声をかけられると、うれしくて、うれしくて。船橋が自分の土台です。

Q このまちに期待することは?

千歳船橋駅に降りるとホッとするんです。ちとふなの「ゆるい感じ」は、変わってほしくないですね。古くからのお店にはずっとがんばってほしいです。



◇ご協力ありがとうございました◇
歳末たすけあい・地域支えあい募金
 2,676件 ¥1,603,680円
 船橋地区社会福祉協議会

～地区の行事予定～

- 3/20(金) 中学校卒業式 船橋希望中学校
- 3/25(水) 小学校卒業式 各小学校
- 3/28(土) 歩こう会
千歳通り～深沢の杉並木～馬事公苑
- 3/29(日) 子どもぶんか村発表会
船橋希望中学校
- 4/ 4(土) 船橋葎根会桜まつり
葎根公園(雨天順延)
- 4/ 4(土) 千歳台廻沢花まつり
希望丘記念公園(雨天順延)
- 4/ 6(月) 小学校入学式 各小学校
- 4/ 7(火) 中学校入学式 船橋希望中学校
- 4/19(日) 駅前フリーマーケット
(法人会主催) 千歳船橋駅前広場(雨天順延)
- 5/17(日) 古着古布回収・ふなばしノミの市
管内6か所・千歳船橋駅前広場
- 6/ 7(日) 船橋あおばまつり
池田児童遊園、船橋地区会館、能勢公園
- 6/13(土) 子ども用品交換会持込
船橋まちづくりセンター2階
- 6/14(日) エコフェスタちとふな・子ども用品交換会
船橋小学校体育館ほか(予定)

ごみ・減量リサイクル推進委員会からのお知らせ
 毎年発行しています船橋・千歳台管内のごみ・資源収集カレンダー(平成27年4月～9月)を3月下旬に町会・自治会回覧または船橋まちづくりセンターで配布しますのでご利用ください。

船橋あんしんすこやかセンター職員紹介

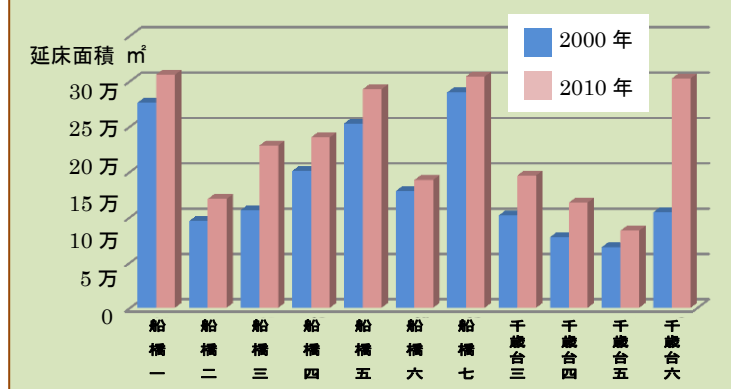
早田 励史郎 (はやた れいじろう)
 1月に着任しました早田励史郎です。前職は「ノテ地域ケアセンター深沢」で定期巡回・随時対応型訪問介護看護の計画作成責任者を担当していました。これからも地域の皆様と「顔の見える関係づくり」ができるようにしていきたいと思っております。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

岡嶋 幸枝 (おかじま ゆきえ)
 1月に着任しました保健師の岡嶋幸枝です。前職は訪問看護師をしていました。地域のよろず相談窓口として、お役に立てるよう尽力してまいります。介護予防講座や、皆様のお宅を訪問してお話を伺うこともあると思っております。よろしくお願いいたします。

てちなう「地
 おり人住域「
 りに「がみが
 ますな「心気
 すは「と地入
 ……がりがよ
 ……とめも
 ……と思多
 ……っまく思
 フし、しとにべ橋のししっ地
 査、よい住て地中たて子に
 した、住う宅成区で、まの生○
 結果、かこが人と他た、姿者れ
 が、統計と増子とち少をた育
 が、紙調人を加とも、地の子取
 面、口ごし、区住高材のた
 査、動存て、区住高材のた
 ので、グ検態知いそにむ齢し活土
 グ検態知いそにむ齢し活土
 う証調でるれ比船化ま動地の

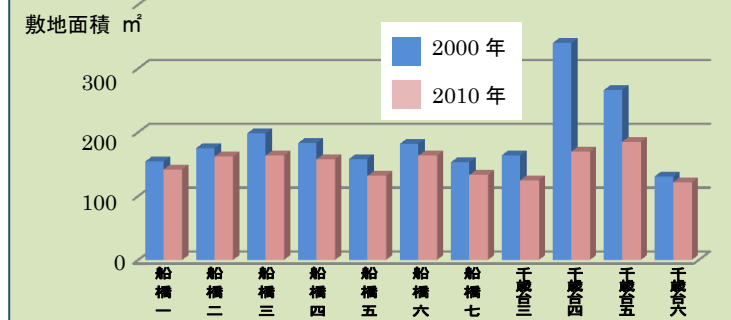


延床面積(個々の建物各階床面積の合計)10年間の変動



建物の延床面積は大きく伸びています。千歳台6丁目の激増・船橋3丁目の増加はマンションによりです。

戸建住宅一戸当りの敷地面積 10年間の変動

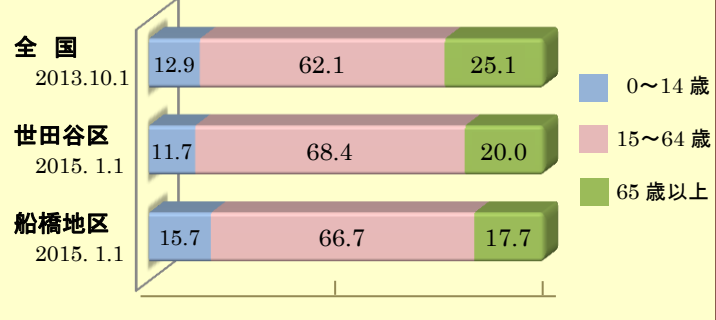


戸建て住宅も増加していますが(船橋全体で20%強、千歳台は50%超)、一戸当たりの敷地面積は減少しています(船橋地区で12%、千歳台地区で21%)。

船橋地区(船橋まちづくりセンター管内)
大人も子どもも、住宅も増・増・増

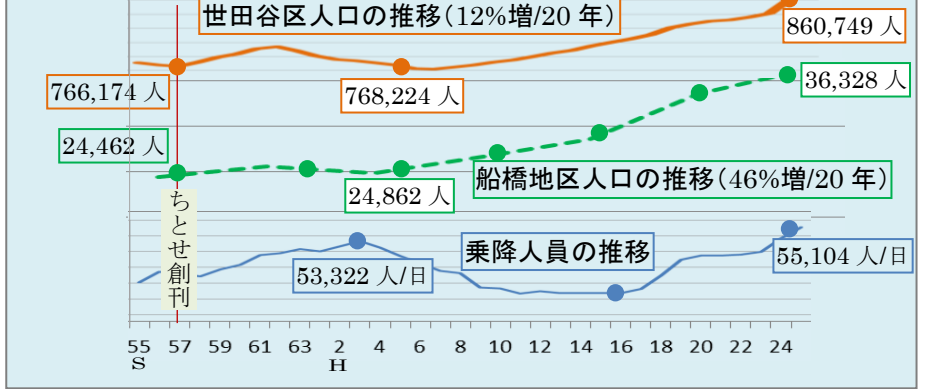
1982年(昭和57年)「ちとせ」創刊より32年。この地域はどのように変わってきたのでしょうか? 少子高齢化・人口減少時代にあっても、世田谷区は人口増加を続けています。船橋地区は中でもその傾向が顕著な地域です。土地区画整理事業によって地区の半分近くが整備された船橋地区の現状は? 人口と住宅等の面からグラフにしてみました。
 (*千歳台1・2丁目の一部については、公表データの関係から取り扱うことができませんでした。)

年齢階級別人口構成比率の比較



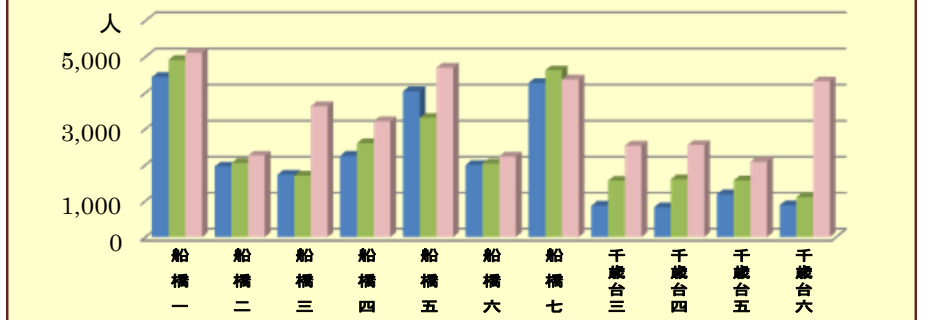
船橋地区は年少人口(0-14歳)の割合が多く、の老年人口(65歳以上)は少なめ、全国と比べても特徴が顕著です。

千歳船橋駅乗降人員(一日平均)の推移と人口の推移



千歳船橋駅の乗降人員は平成に入って減少傾向にありましたが、近年は増加傾向にあります。人口は船橋地区で大きく増加しています。

船橋地区丁目別人口の変動



船橋地区の人口はごく一部を除いて増加傾向にあり、ひときわ増加したのは千歳台6丁目ですが、船橋3丁目も急増しています。

東日本大震災「3.11を忘れない！」
 (特別号：平成26年5月発行)の続報

昨年、千歳船橋駅前広場で行われた「3.11を忘れない！」で、お預かりした募金を贈った宮城県石巻市立北上小学校から、お礼状等が送られてきています。校長だより(平成26年5月26日発行)には橋本恵司校長の謝辞と共に、募金で整備された遊具や子どもたちの遊ぶ姿が載せられています。これらの写真からは、子どもたちの笑顔と歓声が聞こえてきそうです。
 塚田俊雄千歳台小学校長(当時)は、未だ交通網が回復しているとは言い難い状況の中、何度か現地へ足を運び交流を深めてきましたが、肉親が津波の犠牲となってしまった等々の生々しい経験・記憶が残る中、気丈だった校長さえも涙ぐむ場面を目の当たりにし、その痛みの大きさを改めて痛感した、と語っています。
 今年の「3.11を忘れない！」実行委員会では、募金の贈り先をNPO プラスネオに決めました。船橋で生まれ、希望小・中で学んだ若者中村健司さんが、現地(東松島市、拠点：旧野蒜小学校)に寝泊まりして活動を続けている復興支援団体です。



子どもぶんか村発表会
 10周年を迎えて

「子どもぶんか村」会長 佐藤 三智子
 今年度「子どもぶんか村」発表会は10回となりました。これまで支えてくださったみなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。
 「子どもぶんか村」は地域のおとなたちがボランティアで運営するクラブ活動として、全国でも珍しい存在です。船橋まちづくりセンター管内を中心として、当初150人だった子どもたちは倍の300人に増え9つある「くらぶ」の中身も益々充実しています。
 こうして続けてこられたのは、「子どもの成長に地域の教育力が欠かせない」という意識の高い地域性があるからだと感じています。自分の好きなことに取り組み、知らなかったことに挑戦し、学校や学年を超えて楽しさを分かち合い、仲間とともに育っていく「子どもぶんか村」。また、それを支えていくおとながなかり地域をつくる「子どもぶんか村」。今後ともご協力いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

昨年の子どもぶんか村発表会の様子▼

子どもぶんか村発表会

日時：3月29日(日)
 午前9時～12時半
 会場：船橋希望中学校
 うわばきと靴入れをお持ちください。

船橋小径の会「緑の都市賞 奨励賞」
 受賞記念講演会

2月7日(土)、船橋地区会館で「水と緑と土」と題して講演会が開催されました。主催は船橋小径の会と身近なまちづくり推進協議会。第34回緑の都市賞〔(財)都市緑化機構主催〕で奨励賞を受賞した船橋小径の会へ、妹尾協議会会長より祝辞が贈られました。
 講師は、高尾山ビジターセンター解説員を務めるなど経験豊富な米澤邦昌先生。「土は、岩石が砕けたものではありません」と始まったお話。「ワシなどの猛禽類を頂点に土壌生物、バクテリアなどを底辺とするピラミッド型の生態系のなか、すべての動植物の遺骸が分解され長い年月を経て土はつくられる。土こそが生産の、文明の土台。土なくして米も実らない。それを忘れた現代」。豊かな生態系の存在が人間にとっても不可欠、とお話は続きます。
 土の大切さ、自然体験の大切さ、土の小径の大切さに気づき、思いを新たに2時間でした。会場から、水辺の復元こそ、地域として今後目指していくべきでは、との感想が語られました。

